

ピアホームだより

2011. 7. 10

奇蹟が起きる高島平生活

私達が、高島平団地に住むようになったのは、娘が小学校入学の時からです。それまでは志村坂上のマンションに住み、成増厚生病院に勤めていた妻の通勤の都合で、高島平のもみじ保育園に娘を預けていました。

高島平団地の住人は圧倒的に共稼ぎが多く、保育園の父母仲間は、とっても活発で、“共に子育てをしよう”と私達を高島平によく呼んでくれました。狭い部屋にぎゅうぎゅうにつきまりながら、わいわい話して、活気があり、生き生きとしていました。志村坂上に住みながらも、楽しいご近所が出来たのです。

それまでの私は、家と会社を往復するだけで、地域と無縁に過ごしていました。東京には憧れて出て来ましたが、いつも違和感でいっぱい、頭からベールを纏っているようでした。

そんな私でしたから、保育園でのお付き合いは有難かったのですが、やがて終わるものと淡白に考えていたのです。

娘が小学校入学の3週間ほど前だったと思います。菅谷さんが、「しーちゃんも高島五小来なきゃ」と言ってくれたのです。

こんな言葉をかけられるなんて——、その後1週間ほど、必死に家を探し、運よく団地の賃貸を見つけました。

さて、引っ越し当日、私達は知り合いも少なく、ささやかな引っ越し作業をし、高島平に着きました。ところが、思いもかけず保育園仲間が大勢出迎えてくれて、一気に引越しを片付けてくれました。

こんなことがあるのですか？
こんなに嬉しかったことはありません。今も思い出すと、胸が熱くなります。この時から、わたしは、高島平の住人になりました。

引越—もう一つのエピソード

娘、5年生の時、田附さんより団地の部屋を譲るとの提案がありました。私達は、賃貸で暮らしとなくなっていましたので、渡りに船、再び念願の我家を持つことになりました。2

軒の引越は、高島平の大イベント。当時は、何をしても楽しかったのです。

さて、高島平のお付き合いはまだまだ続いています。近頃は、退職がらみで、私どものアドボケイト会に様々な形でご協力願っています。

巡りあわせ—エピソードの結末、田附さん、ピアホームのサービス管理責任者に

不思議な巡り合わせが、また起こりました。リトルハウス就労継続B型移行に向け、私のサービス管理責任者資格要件が不足して、困っていたところ、妻が、障害者教育従事者も対象であることに気付き、田附さんをお願いしたところ、快諾を頂きました。住居を譲り受けた20数年後、また、この様な形で協力をいただけるなんて、まるで、ドラマを見るような思いです。

7月の行事

7月より江本さんがボランティア参加されます。

<7月25日>ピアホームⅡ会議

<7月28日>ピアホームお湯ツアー

